

フォローアップ研修ネット配信 配信中・追加配信予定研修一覧

2020年7月1日現在

- ・配信中研修・・・1P～20P
- ・15分研修シリーズ コンテンツ・・・21P
- ・追加配信予定研修・・・22P～23P
- ・講師一覧・・・24P～27P

介護、福祉、医療現場に従事する職員の皆様に、高い知識と技術を習得していただくために、カリキュラム構築とともに講師の選定にも力を注いでまいります。全国各地で20年以上フォローアップ研修を開催してきた実績と経験を活かし、各項目において専門的知識及び現場目線をお持ちの講師に講義を依頼しています。

皆様に学んでいただきやすい動画になるよう心がけ、丁寧な編集をして参ります。



日本健康医学会賛助会員

お茶の水ケアサービス学院

配信中研修

研修No.1 報告・指示の仕方・受け方研修

①	【報告・連絡・相談の意味と重要性】・報告、連絡、相談とは何か ・報告、連絡、相談の本質
②	【指示の仕方（伝える技術）】・指示の方法 ・指示の内容 ・指示内容の確認 ・指示の内容の途中経過の確認やサポート
③	【指示の受け方（聴く技術）】・正しく話を聞くということの本質 ・指示の受け方（演習有り）
④	【指示の仕方（伝える技術）】・報告の基本 ・報告の仕方 ・相手に理解しやすい説明の方法
⑤	【報告の受け方（聴く技術）】 ・報告の受け方（姿勢、内容の整理、内容の共有） ・報告への対応

研修No.2 楽レク！遊びリテーション

①	【遊びリテーションの定義、目的と意義】・維持型リハビリテーションとは「定義」 ・遊びリテーションの目的と意義を実現するためには
②	【遊びリテーション実施前のポイント】・進行テクニックとチームづくりのポイント ・片マヒの方も楽しめる遊びリテーション
③	【認知症に効果的な遊びリテーション】・認知症の生活の場の分類 ・遊びリテーションが有効なタイプ ・言葉を介さないコミュニケーションとしての遊びリテーション

研修No.3 生活リハビリ研修

①	【施設に浸透させる生活リハビリ】・大切な3つの輪 ・施設に浸透させる生活リハビリ ・解剖学で座位を分析
②	【介護職に役立つ解剖学】・セルフケアに欠かせない動作 ・拘縮について考える
③	【介護職に役立つ運動学】・残存機能を奪うジュウゼロ介護 ・日常生活動作で気をつけたいポイント
④	【歩行介助・おすすめ体操・ケース検討】・歩行介助の間違い探し ・おすすめ体操 ・コミュニケーション技法

研修No.4 介護現場の管理運営セミナー

①	【「管理」の仕事を理解する】・介護事業所の管理職の現状 ・管理とは、何を管理するのか？ ・介護事業所のアウトプット6領域 ・管理業務の視点と具体的なチェックポイント
②	【真に成果を出すチームケアを学ぶⅠ】・会議を活用し、成果をあげる具体策
③	【真に成果を出すチームケアを学ぶⅡ】・人材が定着し成長するための個人面談の方法 ・離職を防ぐモチベーションアップの具体策 ・多職種協働のポイントと具体例 ・家族とともにケアをする視点・クレーム対応・地域交流の具体策
④	【利用者の生活をよくするための職員戦力化の具体策】・マニュアルの意義 ・マニュアル作成の方法 ・OJTの具体策・職員の評価の方法 ・不適切な職員に対して ・人材確保、定着、成長に役立つ教育の具体策 ・集団ケアと個別ケアの違い ・尊厳と自立
⑤	【事業所を守り抜く管理職の仕事論】・ミドルマネジャーが知っておくべき法令知識の基礎 ・運営基準から学ぶ（提供拒否の禁止、記録、ケアプラン、身体拘束の禁止、介護の内容、防災、秘密保持等） ・事業所の重要事項説明書、契約書を読む ・法人の就業規則を読む ・事業所の収支状況に関心を持つ ・記録物の書き方、整備の方法

研修No.5 効果的・効率的な通所介護計画の作り方・評価の仕方

①	【通所介護計画の意義と位置づけ】 ・居宅サービス計画との整合性・連動制
②	【通所介護計画の作成手順】 ・利用者と共に作る通所介護計画 ・通所介護計画の作成手順
③	【アセスメントとプランニング】 ・ケアマネ情報の収集 ・デイの追加情報の収集 ・アセスメント(課題抽出・課題分析) ・プランニング(目標設定、ケア方法・内容の検討)
④	【通所介護計画書の作成(演習)】
⑤	【モニタリングの手順と評価方法】 ・事例検討 (毎日単調で刺激の少ない生活から認知症が進行している利用者) ・モニタリングの準備と考え方 ・モニタリングのポイントと手順 ・通所介護計画の評価方法

研修No.6 チームワーク及びコミュニケーション力向上研修

①	【チームワークとは】 ・目的と目標について ・変化を嫌う職員の特性を理解する ・相互理解と信頼関係の構築 ・役割分担とチームワーク ・チームの成長過程
②	【職員の育成】 ・合意形成の基本 ・行動様式の決まり ・働きやすい環境を整える ・コーチングとティーチング ・教育の三領域 ・キャリア形成の理想と現実
③	【コミュニケーションの知識と技術】 ・指示と知識と技術(指示の方法、内容、内容の確認、途中経過の確認やサポート)

研修No.7 イマドキの若手職員を伸ばすたった3つの方法

①	【研修受講の準備】 ・本研修の目的 ・より成果を得るための参加ルール ・ワーク(自己紹介&褒めのシャワー)
②	【コミュニケーションギャップ】 ・コミュニケーションギャップをなくす ・コミュニケーションギャップが起こるとき ・五感システムを理解する
③	【観察力を鍛える・心のスイッチ(影響言語)】 ・情報サイズの違い ・観察力を鍛える ・心のスイッチ(影響言語)を押す
④	【判断基準別影響言語・思考別影響言語】 ・どうしたらやる気になり、なぜやる気をそぐのか ・動機をつくる影響言語 ・判断基準別(外的基準・内的基準)影響言語 ・思考別(オプション思考・プロセス思考)影響言語
⑤	【伝達の実際(省略・一般化・歪曲)・自己肯定感】 ・伝える時に、何が起きているか(省略、一般化、歪曲) ・自己肯定力を高める

研修No.8 集中して仕事に取り組むためのメンタルトレーニング

①	【気づきと柔軟性】 ・自分自身に気づきが成長のカギ ・気づきの力を高めるためのメンタルトレーニング ・柔軟性とは
②	【苦手意識からの開放】 ・なぜ苦手意識ってあるの? ・苦手意識からの開放 ・脳はリアルな出来事とイメージされた事とは区別しない
③	【心理的な問題の軽減・簡単なセルフケアテクニック】 ・数分で心理的な問題を軽減する方法 ・メンタルトレーニングの効果の確認方法 ・簡単なセルフケアテクニック
④	【目標の明確化(実践プログラム含む)】

研修No.9 業務改善を通して働きやすい職場環境を創る基礎研修

①	【業務改善とは何か】・目標・目的と手段
②	【問題解決、業務改善の7つの階段(1~4)】 1. 成功状態を共有(確認)する 2. 多様性の存在を認める 3. 感情を分離する 4. ストレngth視点でも組織を見る
③	【問題解決、業務改善の7つの階段(5)】 5. 当たり前の行動規準・基準を決める ・現場を徹底分析 ・行動につながる業務改善ポイント
④	【成果を出す5つのポイント】 ・介護にオススメ! SLAC(Success Listing Act Check) ・業務改善の成果を出す5つの質問

研修No.10 医療連携に必要な知識と技術

①	【医療職と介護職の役割と専門性】 ・介護現場を取り巻く状況 ・医療職と介護職 それぞれの専門性 ・連携に必要な「気づき」 ・介護現場に求められる職員像
②	【相互連携に役立つ基礎知識Ⅰ】 ・高齢者の病気の特徴 ・観察の視点
③	【相互連携に役立つ基礎知識Ⅱ】 ・バイタルサインの観察 ・全身状態の観察 ・測定値の見方
④	【薬について】 ・薬の基本 ・効果的な服薬方法 ・誤薬事故を防ぐために
⑤	【看取りについて】 ・看取りの捉え方 ・高齢者の死に至るパターン ・「死」の教育 Death Education
⑥	【連携とコトと社会資源の活用】 ・連携のコツ ・社会資源の活用

研修No.11 記録を充実させるための記録の基本

①	【記録の目的と重要な視点】 ・介護記録の目的とは ・記録を取る上での重要な視点とは ・記録が書けない本質 ・活用できる記録の整備
②	【記録の確認のポイント】 ・正確な情報共有のためのツールの活用 ・記録の確認のポイント
③	【記録を読みやすくするポイント】 ・記録の書き方の演習 ・ですます調とである調 ・各種ポイント(読みやすくする、正確な記録、深みを出す、書式確認)

研修No.12 介護記録の環境整備

①	【記憶に頼らないための手法】 ・記憶の仕組み ・メモの課題における取り組み ・記録媒体までの動線 ・紙媒体? 電子媒体? 介護記録のツール
②	【メモの活用と記録に向けた組織体制】 ・メモを活用した情報共有 ・記録に向けた組織体制 ・記録の見やすさ ・記録の負担の軽減

研修No.13 排泄(排尿・排便)支援の知識と技術の基礎研修

①	【排尿のメカニズム】 ・コンチネンスとは ・アセスメントの知識 ・排尿ケアの基本 ・正常な排尿
②	【排尿障害のタイプと対処の実際】 ・腹圧性尿失禁 ・切迫性尿失禁 ・夜間頻尿 ・溢流性尿失禁
③	【排便のメカニズム】 ・正常な排便 ・排便障害のタイプ ・排便ケアの基本
④	【排便障害の対処法】 ・排便障害の特徴 ・排便障害と対策
⑤	【機能性失禁と認知症の方の排泄ケア】 ・機能性失禁への対応 ・認知症の方の排泄ケアの基本 ・福祉用具の導入 ・オムツの選択 ・排泄問題を解決するためのアセスメント

研修No.14 排泄用具の選び方・付け方の基礎（基礎技術編）

①	・テープタイプのおむつの種類	・テープタイプのおむつの基本的な装着技術	
②	・パッド（インナー）の種類	・パッド（インナー）の交換	・男性用パッド（インナー）の種類
③	・パンツタイプのおむつの種類	・片マヒや拘縮の方のインナー及びアウターの使用方法	
④	・座位及び立位の可能な方への装着技術		
⑤	・骨折予防のプロテクターについて	・シートタイプの種類と使用方法	

研修No.15 介護従事者の「気づき」の力を高める研修会

①	【気づきの基本】	・「気づき」とは	・「気づき」を高める重要性	
		・介護事業所で求められる「気づき」	・危険予知	
②	【気づきの力を高めるためにⅠ】	・「気づき」を高める3つの力		
		・気づきに必要な基礎知識 1「利用者を知る」	2「環境リスク」	
③	【気づきの力を高めるためにⅡ】	・気づきに必要な基礎知識 3「医療知識」		
		・気づきに必要な基礎知識 4「介護の特性」	・「気づき」と情報共有	
④	【演習】	・帰宅欲求が強い方	・入浴を嫌がる方	・危険予知訓練の目的と効果
⑤	【介護現場の危ないを危険予知】	・食事介助の場面	・車いすでの移乗・移動介助	
		・「気づき」を高めるためには		

研修No.16 炎上させない苦情・クレーム対応研修

①	【苦情・クレームの基本知識】	・苦情・クレーム対応の入口【成功メゾット 7つの教え】	・苦情が増えた理由	
②	【苦情対応の基本ステップ】	・事例をもとに苦情とクレームの違いを理解する		
		・クレーム・苦情対応の秘訣～たった2つのメゾット	・炎上する対応5つ	
		・苦情対応の基本ステップと必要な力		
③	【感情の浄化とそのポイント】	・観察力を鍛える	・誠意を見せる	・苦情、クレームの性質
		・苦情がこじれる3つの理由		
④	【事例検討】	・同居家族からの苦情、	・親戚家族からの苦情	・病院事例

研修No.17 2018年（第21回）ケアマネジャー試験 解答・解説セミナー

①	セミナー全体の流れ、2019年10月の試験に向けての準備
②	介護支援分野（問題1～問題25）の解答・解説、介護保険制度21のポイント
③	保健医療サービス分野（問題26～問題45）の解答・解説
④	福祉サービス分野（問題46～問題60）の解答・解説

研修No.18 認知症コミュニケーション向上研修

①	【認知症とは】	・認知症の症状	・BPSDの正しい理解	・主な認知症の種類と特徴
②	【コミュニケーション障害】	・種類別コミュニケーション障害の特徴		
		・コミュニケーションの基本姿勢		
③	【認知症の方とのコミュニケーション】	・現場で使える実践的な技法	・認知症の人の見せる姿	
		・認知症の状態にある方の心理ニーズ	・演習（信頼関係を築くための適切な距離とは）	
④	【演習】	・4つの事例を用いた演習	・認知症の種類別の特徴	

研修No.19 看取り期及び死後のグリーフケア基礎研修

①	【看取りケアの基本】 ・ターミナルケア ・緩和ケア ・エンドオブ・ライフケア ・看取り介護の流れ ・看取りケアの内容
②	【グリーフケアとは】 ・グリーフの定義 ・グリーフワークとグリーフケア ・グリーフワークの考え方 ・グリーフケアの実際例
③	【グリーフケアの内容】 ・目標 ・実践者 ・タイミング ・場 ・原則 ・方法 ・悲嘆
④	【高齢者ケアにおけるグリーフケアⅠ】 ・グリーフの現れ方 ・事例を通じたグリーフケアの理解（本人）
⑤	【高齢者ケアにおけるグリーフケアⅡ】 ・事例を通じたグリーフケアの理解（家族・遺族・支援職） ・ディスカンファレンス

研修No.20 接遇マナー研修

①	【ディズニーにおける接客】 ・介護・福祉における接遇 ・ディズニーにおける接客の考え方 ・ディズニーにおける基準
②	【素敵な笑顔の4つのポイント】 ・笑顔のセルフチェック ・ストロークとディスカウント
③	【あいさつの2つのポイント】 ・あいさつの演習
④	【コミュニケーションの構成要素 「聞く」】 ・「聞くワーク」 アクティブリスニング
⑤	【コミュニケーションの構成要素 「伝える」】
⑥	【ディズニー流 接客ワンポイントレッスン】

研修No.21 ケア従事者のためのハラスメント構造の理解とその対処法

①	【ハラスメント構造の基本】 ・相対化 ・話しやすい基本的なポジション ・ハラスメント構造の基本「自他境界の越境」
②	【ハラスメントの構造と定義】 ・4つの例を通して、ハラスメントの「構造」「定義」を学ぶ ・セクハラ・パワハラ事例のシェアリング演習
③	【ハラスメントの本質】 ・「自他境界の越境」について理解を深める。 ・事例を通してハラスメントの本質についてのまとめ ・ハラスメント抑止システム

研修No.22 介護虐待を起ささないための基礎研修

①	【虐待防止法の正しい理解】 ・施行背景と目的 ・高齢者虐待防止法の特徴 ・高齢者虐待の種類と定義 ・高齢者虐待の正しい捉え方
②	【虐待発生時の対応】 ・早期発見の責務と通報義務 ・施設・事業所の対応 ・行政の対応 ・不適切ケアへの対策
③	【高齢者虐待・不適切なケアの防止策】 ・組織運営の健全化 ・負担やストレス・組織風土の改善 ・チームアプローチの充実 ・倫理観と法令遵守を高める教育の実施 ・ケアの質の向上 ・体制の整備の要点
③	【高齢者虐待とストレスマネジメント】 ・現場・職種特有のストレス ・ストレスのサイン ・バーンアウト ・コーピング ・ストレスに負けないために
	【身体拘束禁止規定と高齢者虐待】 ・身体拘束禁止規定 ・身体拘束に該当する具体的な行為 ・身体拘束が認められる条件と必要な手続き
④	【現場に潜む不適切ケアの再確認】 ・ワーク（・このような時、どう考える？ ・これって虐待？ ・自己点検シートって？） ・事例検討

研修No.23 介護リーダー養成研修

①	【介護リーダーとは】	・介護リーダーの役割	・コミュニケーション	・信頼関係
②	【リーダーの悩みを解決する6つのステップⅠ】	1. 役割	2. 指示・指導	・学習スタイルチェック
③	【リーダーの悩みを解決する6つのステップⅡ】	3. スタッフ教育	・テンションとモチベーションの違い	・モチベーションをダウンさせる習慣
④	【リーダーの悩みを解決する6つのステップⅢ】	4. 情報共有	5. 問題解決力	6. リーダーシップ

研修No.24 研修担当者向け 研修企画講座

①	【研修とは】	・研修の目的、研修担当者の心構えと姿勢、	・研修ニーズの把握、テーマ設定
②	【研修効果の高め方と定着方法】	・研修手法の分類と特徴、研修の効果を高めるために、	・研修の効果を定着させるために、新人育成について
			・研修評価

研修No.25 アドラー心理学に基づく実践コーチングスキルアップ術

①	【アドラー流医療福祉コーチング】	・モヤモヤスッキリ！感情クリア「クリアリング コーチングケア」	・「コミュニケーション実践ワーク」白紙で共感！	・医療福祉コーチングの有効性
②	【アドラー心理学の5つの理論】	・自分軸探しのキャリアデザイン～目的をみつけ、やる気を引きだす関わり方	・アドラー心理学共同体感覚	・事例を通して「ライフチャート」を学ぶ
③	【認知症の方にも使えるコーチング術】	・「自分軸さがし、価値観だし」白紙で共感！	・心の温度チェック「ステイトコントロール」	・アドラー心理学の目的論
④	【ライフチャートの実践】	・マイナス感情からひき出す価値観	・五感を使ったNEW傾聴法	・夢(ビジョン)と一緒に描くワーク(個人ワーク)

研修No.26 介護リーダーに必要な業務改善のための4つの力

①	【業務改善とは】	・分析とは	・課題とは	・解決とは	・業務改善プロセス「SLAC」を理解
②	【理想状態を考える】	・職場の理想状態を明確にする	・解決のプロセスと「悩み」のメカニズム	・職場の分析3つの視点(掛け算思考・組織成功の循環・行動の細分化)	
③	【業務改善4つの視点Ⅰ】	・目標(目標設定・行動目標・個人目標の3つのゴール)	・情報共有(情報共有を阻む3つの壁)		
④	【業務改善4つの視点Ⅱ】	・信頼関係(信頼関係を築く相手・信頼と安心・外部に対する信頼)	・育成(一緒に仕事をしたい相手・行動を決める5つの要素)		
⑤	【業務改善4つの視点Ⅲ】	・育成(モチベーションの保ち方・指導のポイント)	・成果の出る会議(ミーティング)のススメ		

研修No.27 お悩み解決！これでできる機能訓練の計画とその実践

①	【個別機能訓練加算】	・個別機能訓練加算について	・居宅訪問時のポイント(事例検討あり)	・これから必要とされるデイ
②	【解剖学の理解】	・食事環境を見直す	・解剖学で座位を分析	・介護職に役立つ解剖学
③	【効果的な個別機能訓練のコツ】	・拘縮の改善方法	・個別機能訓練の評価と記録	・普段の介助を見直す
④	【おススメ体操と個別機能訓練計画立案ワーク】	・個別機能訓練体操	・個別機能訓練計画の立て方	

研修No.28 「利益を生み出す」生活相談員の仕事術

①	【生活相談員の仕事術Ⅰ】 ・なぜ相談援助業務が「利益を生み出す」ことにつながるのか ・施設長(経営者)と現場の両方からの期待に応えるには ・特養、デイサービス、ショートステイの相談員がすべきこと ・法則を活用した効率のよい「営業」とは
②	【生活相談員の仕事術Ⅱ】 ・「ウリ」を見出す発想の転換 ・併設型施設(事業所)がとるべき営業戦略 ・ケアマネジャーとの関係が上手くいかない時の対応策 ・「率」にこだわることによる落とし穴とは ・稼働率を均一化させるテコ入れの工夫
③	【ケーススタディ(事例研究)】 1. 利用者の増加にともなう入浴サービスに関する苦情 2. 現場スタッフの欠員により受け入れ制限を余儀なくされた事例
④	【グループワーク(稼働率の向上に向けて)】 ・利用者の確保に向けてシェアを拡大する有効策 ・ロコミを侮るなかれ！評判を上げる心理効果の活用 ・「狭く」から「広く」が稼働率を向上させる

研修No.29 介護リーダーのための信頼関係構築スキルアップセミナー

①	【信頼関係とは】 ・信頼関係構築の大前提 ・なぜリーダーはスタッフとの信頼関係構築が求められるのか ・リーダーは観られている(観察)
②	【スタッフの自己重要感を満たし、やる気スイッチを押す】 ・ポジティブワーク(スタッフの自己重要感を満たす) ・スタッフのモチベーションの源泉を知る(やる気スイッチを押す)
③	【スタッフにさり気なく合わせる・息があう心地良いペース】 ・スタッフにさり気なく合わせる ・息があう心地良いペース ・評価を高める聴き方
④	【聴き上手は話上手】 ・新たな信頼関係を目指す実践ワーク ・徹底的に実践しよう！ひとりでもできるおみやげワーク

研修No.30 感染予防と気を付けたい感染症の知識

①	【感染対策の必要性】 ・感染対策において求められるもの ・介護事業所の特性と問題点
②	【感染症の基礎知識】 ・「運ばない」ための対策～感染経路～ ・スタンダードプリコーション(標準感染予防策)の確立
③	【衛生管理と高齢者の健康管理】 ・清潔・不潔のゾーニング ・介護にかかわる衛生管理 ・高齢者の健康管理
④	【感染予防に向けた体制作り】 ・感染対策委員会について ・職員研修について ・感染症発生時の対応
⑤	【高齢者に多い感染症と個別の感染対策】 ・高齢者に多い感染症の症状と観察・対応のポイント ・個別の感染対策(インフルエンザ、結核、疥癬、MRSA、ウィルス性肝炎食中毒、感染性胃腸炎)

研修No.31 新人を受け入れる前におさえない「先輩講座」

①	【理想の職場とは】 ・離職率の低下を考える ・退職理由の解釈
②	【本当にそれでいいの？求める人材】 ・即戦力より大事なものがある ・育成ポイントは未来からの逆算 ・自分たちで教育できることとできないこと ・働き方改革の考え方
③	【入職前キャリア別対策法】 ・有資格者 ・無資格者 ・業界内転職、 ・異業種からの転職者 ・「知っている」、「できる」に加えてほしい育成(評価)のポイント
④	【既存スタッフが全員で実行すべきポイント】 ・着眼点、解釈、行動を共有すると3倍速く育つ ・職場ぐるみで育成を行うためのポイント

研修No.32 アルツハイマー型認知症高齢者へのケアの知識と技術

①	【認知症の理解】 ・認知症とは・認知症の症状・認知症ケアの考え方
②	【アルツハイマー型認知症～特徴・進行の仕方】 ・中核症状・特徴・進行過程・初期、中期、後期、晩期の姿
③	【キュアとケアの考え方～正しい知識と技術】 ・キュアの考え方・薬物療法・ケアの考え方・BPSDについて
④	【具体的なケア・接し方】 ・軽度～高度後半のケアと接し方・ケアの考え方と視点
⑤	【認知症に対する支援～地域での生活】 ・適切な医療の提供・医療と介護の連携・社会資源について

研修No.33 誰にでもできる寝たきり重度の復帰ケアと拘縮予防ケア

①	【寝たきりになる段階を理解する】 ・身体的要因 ・心理的要因 ・環境要因について考える
②	【環境設定の仕方、お手本になる部屋づくり】 ・写真を用いて具体例を解説
③	【廃用症候群を知ることとケアの仕方を知る】 ・端座位の条件 ・覚醒に重要な働きとは
④	【拘縮のケア】 ・屈曲拘縮について ・痛みを軽減するアイテム ・拘縮した手のひらき方からなぜ拘縮が起こるのかひも解く
⑤	【拘縮ケアの実際】 ・ハンドグリップについて ・「危ないですよ」「座ってください」の言葉から何をひも解けるのか ・ミラクルグリップ

研修No.34 ヒヤリ・ハット報告及び事故分析の基礎研修

①	【ヒヤリハットとは】 ・どういう出来ごとのことか？ ・なぜ報告してもらおうのか？ ・分析に求められているのは何か？
②	【リスクマネジメントについて】 ・リスクには2つの定義(とらえ方)がある ・リスク、安全、安心の関係性 ・法律とリスクを理解する
③	【ヒューマンファクターの視点】 ・ヒューマンファクターとは ・なぜヒューマンファクターなのか ・人間を理解する ・チーム力が不可欠
④	【いきさつに見える化】 ・報告から事実を把握する ・いきさつを「見える化」する ・演習(いきさつに見える化、SHEL 分析し、対策を考える ・演習の解説
⑤	【まとめ】 ・調査・分析から対策まで ・安全の決め手！コミュニケーションと確認 ・チームによる対応 ・「記録」の目的と活用 ・「安全文化」の創造

研修No.35 かちん むかッ ぐさッの心理学研修

①	【対人トラブル】 ・人間関係の構造を体感する ・対人トラブルとは何かを知る
②	【対人ストレス】 ・他者援助を通じた自己成長とは ・ストレスとは ・対人ストレス注意信号
③	【対人トラブルの真犯人】 ・自己効力感とは ・対人トラブルの真犯人！学習性無力感を理解する ・対人リテラシー 7つの機能

研修No.36 現場の理学療法士が教える転倒予防集中研修

①	【転倒予防の基礎知識】 ・骨折しやすい箇所 ・高齢者の転倒が多いシーン(在宅、施設) ・転倒の原因と転倒しやすい疾患 【転倒予防の環境設定Ⅰ】 ・普通の生活をあきらめない環境設定 ・転倒しやすい薬剤
②	【転倒予防の環境設定Ⅱ】 ・ケース検討 【転倒予防の介護術Ⅰ】 ・解剖学で座位を分析 ・立ちあがりの3条件 ・ひっぱらない介護の実践
③	【転倒予防の介護術Ⅱ】 ・ジュウゼロ介護 ・拘縮予防の知識 ・普段の歩行介助が転倒を防ぐ ・ケース検討
④	【転倒予防の身体づくり】 ・転倒リスクの評価 ・おすすめ体操 ・転倒予防対策 ～事例検討～

研修No.37 認知症研修 アセスメント編

①	【認知症の理解】 ・認知症とは ・認知症の症状 ・主な認知症の種類と特徴
②	【認知症に関する支援】 ・地域での医療と介護の連携のあり方 【認知症ケア】 ・認知症ケアの考え方
③	【アセスメントの理解】 ・アセスメントの視点 ・認知症アセスメント6領域
④	【アセスメントからケアへ】 ・サービス担当者会議の活用 ・モニタリング 【アセスメントをケアに活かす】 ・認知症ケアあるべき姿
⑤	【事例検討】 ・事例から学ぶ ・認知症ケアの基本原則

研修No.38 ターミナルケア基礎研修

①	【看取りの基礎】 ・介護保険制度における「看取り」 ・言葉の整理 ・「看取り」の捉え方
②	【ターミナルケアの考え方】 ・ターミナルケアの考え方 ・ターミナルケアの考え方と歴史 ・死の教育 【看取りの体制作りⅠ】 ・病院と在宅、施設の違い ・高齢者介護における「看取り」 ・看取り介護への取り組み方
③	【看取りの体制作りⅡ】 ・死後のカンファレンスのポイント ・各職種の役割 【看取り介護の実際Ⅰ】 ・各時期のポイント
④	【看取り介護の実際Ⅱ】 ・エンドステージ特有の変化 ・死を直前にしたケアのポイント ・情緒的なかわりとは ・家族への支援
⑤	【加算について】 ・「看取り加算」の特徴 ・介護保険H30 改正のポイント ・看取り加算の要件における基準 【まとめ】

研修No.39 力と意欲を引き出す介助術

①	【これまでの介助との違い】 ・介助とは ・これまでの介助との違い ・被介助者の持っている能力を引き出す ・動くとは(事例写真を用いて解説)
②	【動きを引き出すための5つの基本】 ・アセスメントについて ・動きを引き出す(事例写真を用いて解説)
③	【演習】 ・支え方、触れ方について ・動きの伝え方 ・声かけの基本

研修No.40 ふろフェッショナル！入浴ケアの達人育成研修

①	【生活の中で考える入浴の大きな役割】 ・なぜ、肩までつか入浴がいいのか？ ・『生きていこう』がはじまる入浴ケアとは？ 【環境でこんなに変わる！お風呂の環境設定のポイント】 ・施設の環境はご利用者に合っていますか？ ・入りやすい入浴の環境設定とは
②	【すべての介助で役立つ解剖学的ポイント】 ・人を支えやすい解剖学的ポイント ・拘縮予防と改善方法
③	【すべての介助で役立つ運動学的ポイント】 ・麻痺した手の洗い方 ・浴槽から立ち上がるための運動学的ポイント
④	【入浴実技と福祉用具】 ・浴槽を使用した入浴実技 ・介助に役立つ福祉用具 ・入浴介助のまとめ

研修No.41 摂食及び嚥下に関する基礎研修

①	【食事の意義】 ・摂食嚥下支援を取り巻く環境 ・食事支援の課題 【摂食嚥下の基本事項】 ・基本の解剖学 ・摂食嚥下のプロセス
②	【主な誤嚥のリスク要因とその対処法】 ・誤嚥性肺炎の原因 ・食事における誤嚥リスクと環境因子 ・食事時の 誤嚥を知る 【食事介護の基本Ⅰ】 ・摂食具の不具合とその対応(含スプーンテクニック)
③	【食事介護の基本Ⅱ】 ・姿勢不良とその対応
④	【食事介護の基本Ⅲ】 ・食塊形成困難とその対処(含食形態・トロミの考え方) 【摂食嚥下の時期別アセスメントとその対処法】 ・各種評価方法
⑤	【施設でできるスクリーニング検査】 ・各種評価方法 ・非VF系フローチャート 【口腔ケアの重要性とその方法】 ・口腔ケアの重要性 ・口腔ケアの方法 【事例紹介】 ・脳卒中 ・重度認知症 ・ダウン症

研修No.42 事故予防及び緊急時対応研修

①	【事故予防】 ・「起きてからのこと」を考える前に ・リスクマネジメントとは
②	【緊急時対応の原則】 ・緊急事態が起こる前の適切な対応 ・周知、事前説明 ・事前指示書
③	【異常の早期発見】 ・普段の観察 ・緊急性を見極め ・レポートサインの一例
④	【医療と介護の連携】 ・医療職から指示、医療職への報告 ・緊急事態発生時の対応
⑤	【意識障害への対応】 ・原因 ・確認項目 ・体温の異常 【熱中症について】 【呼吸・血圧・脈拍の異常】
⑥	【痛みへの対応】 【嘔吐・下痢への対応】
⑦	【誤飲・誤嚥・窒息】 ・誤飲時の対応 ・誤嚥性肺炎 ・誤嚥を防ぐ ・窒息時の対応
⑧	【外傷について】 ・骨折 ・けがや出血 ・火傷

研修No.43～54 情報公表対応 ミニ研修

	【介護予防の理解】 ・介護予防とは ・老年症候群の理解 ・介護保険法と介護予防
	【プライバシー保護・個人情報取り扱いの理解】 ・介護現場におけるプライバシー保護（事例あり） ・個人情報取り扱いの注意点
	【倫理・法令遵守の理解】 ・職業倫理について ・組織倫理 ・コンプライアンスの範囲 ・法令遵守とは
	【介護従事者の接遇】 ・介護現場における接遇 ・一般接遇5原則 ・介護従事者に求められる接遇
	【身体拘束排除の知識】 ・身体拘束となる行為 ・もたらず弊害 ・身体拘束をせざるにケア3原則
	【虐待防止に関する理解】 ・高齢者虐待禁止法 ・発生要因 ・虐待を回避するために ・ストレスと虐待
	【事故防止の理解】 ・介護事故の捉え方 ・基本的な取り組み ・未然に防ぐには ・危険予知訓練
	【緊急時対応の理解】 ・緊急時の対応 ・いつもと違う？「観察」 ・意識レベルの確認
	【非常災害時の対応】 ・火災対策 ・各種訓練 ・自然災害時への対応 ・認知症の人の避難所生活
	【感染症の予防とまん延防止】 ・高齢者に多い感染症 ・感染予防3原則 ・介護者が感染源とならないために
	【食中毒の予防とまん延防止】 ・特に注意したい食中毒 ・食中毒予防3原則 ・ノロウィルス処理手順
	【認知症ケア】 ・認知症とは ・中核症状 ・BPSD ・4大認知症 認知症ケアの考え方 ・認知症の人とのコミュニケーション ・認知症ケアの基本理念と基本原則

研修No.55 相談援助が上達する研修会

①	【交流分析の基本理論】 ・研修の視点 ・エゴグラムをやる ・ストローク
②	【自我状態と3つの私】 ・自我状態とは ・代表的なエゴグラム ・エゴグラムを用いた自己変容
③	【やりとりの分析】 ・やりとりの3つの形 ・3つの的を射るやりとり(事例を用いて解説)
④	【相談面接技術】 ・コミュニケーション技法 ・コミュニケーションの演習 ・会話への導入
⑤	【ソーシャルワークの基本】 ・ソーシャルワークとは ・ソーシャルワークの体系
⑥	【バイスティックの7原則】 ・良いコミュニケーションの成立 ・事例を用いて7つの原則を考える
⑦	【スーパービジョン】 ・スーパービジョンの機能 ・スーパービジョンの方法(演劇を用いて解説)
⑧	【接遇】 ・挨拶 ・身だしなみ ・現場にふさわしい言葉遣い ・ストレスマネジメント

研修No.56 気疲れしない関係を創るトレーニング

①	【気疲れの正体】 ・研修受講前の準備 ・コミュニケーションのずれ ・なぜ人間関係は疲れるか ・人間関係がシンドイとは ・気疲れの正体 ・良い人間関係
②	【気疲れしない人間関係】 ・人権とは ・3つの関係 ・気疲れしない人間関係をつくる ・人間関係づくりワーク
③	【「聴く」と「伝える」トレーニング】 ・PM理論 ・「思い通りに行かない」を考える ・トレーニング1「聴く」 ・トレーニング2「伝える」
④	【事例検討】 ・ジョハリの窓(自己成長) ・自己開示とフィードバック ・気疲れしない伝え方 ・事例検討(いつも他人の愚知を言う、同じ職場の人を非難する、仕事ができない主任)

研修No.57 介護事業所のためのチームワーク向上研修

①	【チームとグループの違い】
②	【チームワークが必要な理由】 ・チームワークが良いチームとは ・信頼関係が必要な理由 ・価値観がどの面を見るかで変わる ・事例検討1 ・負のループ
③	【自分のタイプ診断】 ・自分のタイプを知る ・相手の違いを活かすコミュニケーション
④	【チームワークを発揮する】 ・事例検討2 ・2つの質問の仕方 ・「報告」「連絡」「相談」をどう理解しているか ・問題解決につながる質問集

研修No.58 コーチング研修<人材育成の知識と技術>

①	【育てる側に求められるもの】 ・育てる側の役割 ・必要な力 ・必要な姿勢 ・育てる側の影響力
②	【自己覚知】 ・エゴグラムで自分探し ・自分の傾向を知る ・フローチャートで自分を分析
③	【人材育成】 ・人材育成の技法 ・ティーチングの技法 ・コーチングの技法
④	【コーチングのプロセス】 ・各プロセス(質問、傾聴、承認、提案)のスキルと留意事項
⑤	【コーチングスキルの演習】 ・演習(質問のスキル、傾聴のスキル、承認のスキル)
⑥	【具体的なコーチングの演習】 ・遅刻の多いスタッフ、記録に不備が目立つスタッフ、 気配りの足りないスタッフ ・コーチング技法を使ってスタッフの行動改善を図る
⑦	【コーチングの活用術】 ・「怒る」と「叱る」の違い ・タイプ、年代、経験別の接し方 ・研修のまとめ

研修No.59 介護職のための病気と薬の基礎講座

①	【研修受講の前に】 ・研修の進め方 ・資料の説明 ・能力の開発が必要な分野
②	【医療外行為の再確認】 ・5つの行為 ・役割分担と連携の強化 ・医療連携の目安 ・バイタルサインとは ・疾患の理解:糖尿病
③	【医療知識が必要な理由 ~介護保険制度の再理解】 ・介護保険制度の理念等 ・法律を読み解く
④	【高齢者の心身の特徴】 ・老年症候群 ・脱水 ・便秘 ・低栄養 ・感覚器の老化 など
⑤	【高齢者に多い疾患】 ・呼吸器疾患 ・心疾患 ・神経内科系の疾患 ・消火器疾患 ・糖尿病 ・骨、関節の疾患 ・認知症と精神疾患 など
⑥	【薬剤の作用と役割】 ・薬の作用と役割 ・医療外行為~薬の介助編 ・原因療法と対処療法 ・薬効に影響する食べ物等 ・薬の有効期限と保管方法 ・薬の用法、服薬時間の目安等
⑦	【事例演習】 ・血圧の薬を飲み始めた利用者 ・薬を飲み忘れた利用者

研修No.60 職場でへこたれないメンタルトレーニング

①	【メンタルトレーニングとは】 ・自己紹介ゲーム、社長大変ですゲーム を通して自分自身の気づきを促す ・メンタルトレーニングとは ・柔軟性を身に付ける
②	【苦手意識】 ・苦手意識とは ・苦手意識からの開放 ・メンタルトレーニングの体感1(ちょっとした楽しかった事を思い出す)
③	【メンタルトレーニングの体感】 ・声から苦手を感じたことを思い出す
④	【コミュニケーション】 ・会話ドロボウとは ・聴き方のスキル ・会話時のイメージ
⑤	【客観的になるトレーニング】 ・質問にはパワーがある ・AS IF フレーム ・メンタルトレーニングの体感3(会話で意識を方向付ける)
⑥	【目標の明確化】 ・メンタルトレーニングの体感4(心と身体) ・目標の明確化 ・リフレーミング ・アンカリング ・スペシャルワーク(未来の自分からのメッセージ)

研修No.61 褥瘡予防のための状況別ポジショニング

①	【褥瘡発生のメカニズム】 ・床ずれ防止用具とは ・褥瘡とは ・褥瘡発生のメカニズム ・圧迫とずれ ・用具とケア ・介助によるずれ
②	【褥瘡の分類】 ・NPUAP 分類 ・褥瘡を予防するためには ・褥瘡のできやすい箇所 ・OHスケール
③	【床ずれ防止用具】 ・病的骨突出度の分類 ・床ずれ防止用具 ・エアマットレスの種類 ・OHスケールとマットレス
④	【ポジショニングとは】 ・ポジショニングの原則 ・体位変換の目的 ・ポジショニングの役割
⑤	【ポジショニングの実践】 ・ケアと観察 ・30℃臥位 ・安楽肢位 ・リクライニング ・拘縮
⑥	【事例を用いてポジショニングを理解】 ・ポジショニングの結果 ・ポジショニングの実際
⑦	【デモンストレーションによるポジショニング】

研修No.62 ケアマネジャー試験対策【介護支援制度論コース 2日間】

①	介護支援制度論コース 1日目
②	介護支援制度論コース 2日目

研修No.63 認知症 BPSD（行動心理症状—周辺症状）対応研修

①	【認知症の理解】 ・認知症の症状 ・認知症の現れ方 ・BPSDとは
②	【ケアの視点を変えてBPSDを減らそう】 ・認知症の人の見せる姿 ・認知症ケアの考え方 ・アセスメント
③	【認知症ケア あるべき姿】 ・アプローチ方法 ・BPSD発生の軽減に向けた考え方
④	【BPSD軽減に必要な知識と技術】 ・高齢者特有の心身特徴 ・認知症に対する基本的な知識 ・BPSD 発生のメカニズム ・ケアにおける基本姿勢 ・ケアにおける具体的な視点と姿勢 ・基本的なコミュニケーション
⑤	【大変を楽しくするケアの工夫】 ・食事 ・排泄 ・入浴
⑥	【大変を楽しく変えるために・演習】 ・事例検討 【まとめ】

研修No.64 どんな環境でも活用できる介護技術研修（移乗・応用編）

①	【このような介助、していませんか？】 ・立ち上がりの介助法の確認 ・椅子と車いすの差し替え介助 ・介護の悪循環 ・過介護に気をつける ・ADL 評価
②	【介護をする前に…】 ・身体機能や ADL の状態をチェックする ・自立支援とは？ ・立ち上がる為の下肢筋力が有るかを見極める方法 ・環境を整える
③	【介助の基本】 ・介助法の原則 ・力の方向 ・バランス ・段階的介助のすすめ 【立ち上がりのしくみを理解する】 ・日頃の立ち上がり ・椅子からの立ち上がり3条件 【職場における腰痛予防策の推進】 ・腰痛の発生要因 ・対策
④	【立ち上がりの介助法】 ・立ち上がりの自立支援の介助法 【移乗(トランスファー)の基本】 【福祉用具を使った移乗の環境づくり】
⑤	【台を使った後方介助】 ・移乗介助の基本セット ・移乗介助の3ステップ ・安定した座位の確保
⑥	【前方介助】 ・肩に担ぐ介助 【普通のイスを使ったトランスファー】 【スライド法の応用】

研修No.65 スタッフがプロの介護職に成長するリーダーの関わり方

①	【スタッフ研修・スタッフの指導法】 ・スタッフの能力を学歴や勤務年数のみで評価しないために
②	【プロの介護とは】 ・ケアの全体像 ・リーダー自身の介護力とは ・お年寄りの生きている実感とスタッフが感じるケアの喜び
③	【プロ意識を持ってもらうために】 ・身体拘束(抑制)について学習する ・事故とは何か、責任とは何かを知る ・報告・連絡・相談を行う ・事故報告書の作成から学ぶ
④	【大切な人を大切に作るケア】 ・自分との関係 ・固有名詞との関係 ・不特定の人との関係

研修No.66 認知症の“人と寄り添う” 為に専門職として知っておきたい5つの視点

①	【スタッフ研修・スタッフの指導法】 ・スタッフの能力を学歴や勤務年数のみで評価しないために
②	【プロの介護とは】 ・ケアの全体像 ・リーダー自身の介護力とは ・お年寄りの生きている実感とスタッフが感じるケアの喜び
③	【プロ意識を持ってもらうために】 ・身体拘束(抑制)について学習する ・事故とは何か、責任とは何かを知る ・報告・連絡・相談を行う ・事故報告書の作成から学ぶ
④	【大切な人を大切に作るケア】 ・自分との関係 ・固有名詞との関係 ・不特定の人との関係

研修No.67 デイサービスにおける稼働率向上と生活相談員の役割

①	【生活相談員の役割】 ・生活相談員のポジション ・生活相談員の業務実態 ・今後、生活相談員に求められる役割
②	【稼働率向上を目指して】 ・デイサービスの選ばれ方 ・法則を活用した効率のよい「営業」とは？
③	【戦略を考える】 ・全ての事業所が「スーパーデイサービス」である必要はない ・事業所の方向性の検討 ・事業所の「強み」を意識する ・「弱み」を受け止め「強み」につなげる ・オプションサービスの有効活用
④	【ケーススタディ】 ・予定に入っていなかった申し出に対する対応 ・利用者の増加にともなう入浴サービスに関する苦情
⑤	【グループワーク】 ・稼働率向上に向けた戦略のシミュレーション
⑥	【円滑な稼働率管理を行うために】 ・変化を読む ・「ご機嫌」の活用 ・「狭く」から「広く」へ

研修No.68 介護サービス情報の公表における運営情報の正しい理解と書類整備のための研修会

①	【情報公表の目的と流れ】 ・制度化の背景 ・利用者の選択に資する情報提供の環境整備の必要性 ・福祉および介護サービス情報の調査および評価の動き ・指導監査または第三者評価との違い ・介護サービス情報公表の流れ ・調査方法 ・調査票の処理手順
②	【調査を受けるにあたってのポイント】 ・判断基準について ・介護サービス情報の公表の意義 ・マニュアルの活用 ・「確認のための材料」の内容の正確な理解 ・調査手法の正確な理解 ・情報公表の活用

研修No.69 介護サービス情報の公表における運営情報の正しい理解と書類整備～通所介護編～

	通所介護 運営情報 1～71 の解説
--	--------------------

研修No.70 介護サービス情報の公表における運営情報の正しい理解と書類整備～訪問介護・居宅介護編～

①	訪問介護 運営情報 1～76 の解説
②	居宅介護支援 運営情報 1～55 の解説 ※訪問介護と重複するものは除く

研修No.71 倫理及び法令遵守、プライバシー保護の取り組み

①	【介護保険法令の理解と法令遵守】 ・社会保障の概念と分類等 ・社会保障給付費の推移 ・法律、法令、条例の理解 ・記録の整備(ワーク含む) ・市町村、都道府県条例、集団指導について
②	【事業者等の倫理】 ・高齢者虐待の防止 ・日常生活自立支援事業と成年後見制度 ・事業者等、従業者の実践に向けて ・福祉職に求められる基本視点と7原則 ・人生の最終段階における医療及びケア方針の決定手続
③	【プライバシー保護の取組みⅠ】 ・介護保険制度の理念等 ・介護保険のサービスを受ける際の手続き
④	【プライバシー保護の取組みⅡ】 ・プライバシーの概念の返還 ・プライバシーとは ・事業者等、従業者の実践に向けて ・用語の定義 ・こんなことやっていませんか？ ・業務の振返りと個人情報漏洩の可能性を検討

研修No.72 とことん実技のトランスファー研修会

①	【トランスファーの基本】 ・廃用を考える ・固まる身体 ・寝返りの3原則
②	【数字で表せる生活支援】 ・体のねじれの重要性 ・上半身の自由度が増す ・食事の椅子と机の高さ
③	【ワンポイントケア学】 ・大腿四頭筋を強化する生活ケア ・移動用バーについて ・立ち上がりの曲線と立ち上がりの5条件
④	【安全な移動方法】 ・立ち上がりの5条件(実演) ・良い動作介助 ・介護職の足腰をいたわる骨盤体操

研修No.73 基礎からわかるアセスメント実践研修

①	【アセスメントの定義】 ・アセスメントの目的 ・介護・医療の展開(目標設定、実践、モニタリング、再評価)
②	【アセスメントとは】 ・ICF(国際生活機能分類) ・ICIDH(国際障害分類) ・環境因子
③	【アセスメントの進め方】 ・情報収集 ・ニーズの把握 ・動作観察・検査
④	【アセスメントの評価項目Ⅰ】 ・心身の能力やADL
⑤	【アセスメントの評価項目Ⅱ】 ・感覚 ・関節の動き ・バランス ・疼痛 ・嚥下
⑥	【高次脳機能障害】 ・注意障害 ・記憶障害 ・遂行機能障害 ・社会的行動障害 ・失認 ・失行 ・失語
⑦	【基本動作】 ・臥位 ・寝返り ・起き上がり ・臥位での移動 ・坐位保持 ・坐位での移動 ・四つ這い ・膝立ち ・立つ上がり ・歩行

研修No.74 介護施設及び事業所の看護師の専門性を活かすための基礎研修

①	【医療職と介護職の専門性Ⅰ】 ・本来の職務 ・それぞれの特性、視点 ・生活を支える場で看護とは①②
②	【医療職と介護職の専門性Ⅱ】 ・生活を支える場での看護とは③④ ・利用者の重度化や医療ニーズへの対応 ・医療的ケア教員研修の内容と目標
③	【施設内外の多職種との連携】 ・介護保険制度の目的 ・介護領域での連携の前に ・介護現場に求められる連携の在り方 ・介護現場に求められる職員像 ・他職種の専門性を認め合う
④	【多職種から看護師が欲しい情報をもらうためのポイント】 ・介護職への指示 ・介護との連携チェックリスト
⑤	【事例Ⅰ】 ・ある男性利用者の事例 ・医療的リスクのある利用者への対応
⑦	【介護現場で求められる看護人材】 ・現状の大きな問題 ・求められる看護人材を育成するためには

研修No.75 介護現場で活かせるパーキンソン病（症候群）のケア

①	【パーキンソン病とは？】 ・発症のメカニズム(原因) ・診断基準 ・症状の現れ方 ・運動症状 ・特徴
②	【非運動症状】 ・自律神経症状 (頻尿、便秘、起立性低血圧、嗅覚障害、睡眠障害、痛み・しびれ、嚥下障害、発汗の異常、体重減少、視覚障害) ・精神神経症状 ・認知機能障害
③	【運動症状の一般的な経過】 ・初期症状(振戦、歩行障害、筋固縮による動作緩慢) ・中期症状(姿勢異常、精神症状、嚥下障害) ・末期症状(言語障害、認知障害、寝たきり) 【パーキンソン症候群とは？】 ・主な原因と分類 ・主な原因疾患 ・鑑別診断
④	【グループワーク】 ・さまざまな誤解を受けていること理解する
⑤	【ケアと5つのポイント1】 ①医学管理(薬)と運動 ②人間関係の場を作る ③進行過程におけるケア
⑥	【ケアと5つのポイント2】 ③進行過程におけるケア(介護の悪循環、廃用症候群、閉じこもり)
⑦	【ケアと5つのポイント3】 ④環境整備(住環境・福祉用具) ⑤公的支援制度
⑧	【実技指導】 ・日常動作と介助のコツ ・症状を改善する効果的な体操 ・一人でもできる機能回復運動 ・みんなで楽しくパーキンソン体操

研修No.76 職員の教育効果を高める基礎研修

①	【指導力をあげるには】 ・実りのある学びのために(他者との違い・物事の意味付け・柔軟性など)
②	【「伝わる」とはどういうことか】 ・VAKモデルの優位な感覚 ・「伝わった」ことの確認
③	【相手にとってわかりやすいとは】 ・相手のタイプを知る ・相手を尊重する ・結果とプロセス
④	【伝え方のスキル】 ・ペーシングとバックトラック ・「教えました」ではない ・質問と適切なフィードバック ・声の使い方
⑤	【エクセレントサークル】 ・体感ワーク:自身のエネルギーを短時間で高める

研修No.77 排泄支援研修（事例編）

①	【排泄のメカニズム】 ・アセスメント ・排泄に必要な機能 ・正常な排泄とは
②	【腹圧性尿失禁】 ・対応方法 ・骨盤底筋体操 ・軽失禁用パッドとパンツの種類
③	【切迫性尿失禁・溢流性尿失禁】 ・過活動膀胱 ・膀胱訓練 ・対応方法 ・残尿測定 ・前立線肥大症
④	【頻尿・機能性失禁】 ・頻尿と夜間頻尿 ・機能性失禁への対応 ・排尿誘導の分類
⑤	【環境整備・アセスメント】 ・福祉用具、オムツの種類 ・適切な用具選び ・アセスメントの方法とポイント ・排尿チャートの付け方、読み方、有効活用
⑥	【事例】 ・膀胱・尿道機能低下による失禁 ・排泄日誌を読み込もう ・誰にとっての問題か

研修No.78 介護施設・居住施設の効果的な虐待防止の具体策

①	【虐待とは何か？】 ・5つ虐待の種類と内容、その事例
②	【介護現場の身近な事例から考える】 ・事例を通して利用者のしたいことや職員の関わりを考える
③	【不適切ケアとは何か？】 ・不適切ケアが生む悪循環 ・これって不適切？ ・言葉遣いが丁寧、の意味
④	【尊厳・個別ケア・利用者からの暴力】 ・「モノ・動物・他人」との違い ・尊厳の意味 ・集団ケアと個別ケア
⑤	【身体拘束防止の考え方】 ・身体拘束とは何か ・やむを得ない理由とは ・必要とされる記録
⑥	【身体拘束防止の具体策】 ・事例を通して身体拘束を考える ・プロとしての対応とは ・BPSD に対する薬物療法 ・家族から身体拘束を求められた場合
⑦	【身体拘束適正化の基準と事例】 ・解釈通知と指針を読み解く ・相談事例の検討
⑧	【介護現場での多角的取り組み】 ・生活歴・生活習慣の把握 ・存在承認 ・面談・話すことの重要性 ・チームの巧罪 ・少人数ケア事業所の人材育成

研修No.79 看取りケア研修実践編

①	【看取りケアの基本】 ・看取りケアとは ・看取りケアの考え方 ・看取りケアの現状 ・PDCAサイクル
②	【看取りケアの体制づくり】 ・基本方針 ・基本指針 ・必要な環境整備 ・マニュアル策定 ・職員研修
③	【職員研修の目的】 ・死生観の構築 ・医療等との連携 ・家族との協力体制
④	【看取り介護の流れⅠ】 ・適応期、安定期、不安定・低下期の目的と手順 ・衰弱傾向が出現した場合 ・看取り期前半、期後半の目的と手順 ・看取り期カンファレンス、ケアプラン
⑤	【看取り介護の流れⅡ】 ・看取り期前半、期後半の目的と手順 ・看取り期カンファレンス、ケアプラン
⑥	【看取り介護の流れⅢ】 ・ご逝去の目的と手順 ・ご逝去間際の姿 ・看取り期の連絡体制 ・ご逝去後の目的と手順
⑦	【本人への具体的支援】 ・介護現場における留意点(食事、排泄、入浴・保潔、睡眠、環境整備、コミュニケーション)
⑧	【家族への具体的支援】 ・家族来訪時のポイント ・臨終期
⑨	【エンゼルケア・グリーフケア】 ・エンゼルケアの心得 ・見送りのマナー ・家族、職員へのグリーフケア
⑩	【グリーフケアの実際】 ・グリーフケアの一例を画像で紹介 ・事例を通じた実践の理解

研修No.80 多職種で取り組む臥位姿勢ポジショニングケア

①	【ケース紹介】 ・実際に寄せられたケースについて写真を見ながら検討する
②	【不良姿勢の放置や乱暴なケアで起こる健康被害】 ・ケース紹介 ・優しいケアとは何か？
③	【不良姿勢の放置や乱暴なケアで起こる健康被害～各論～】 ・呼吸への悪影響 ・交感神経過緊張状態
④	【姿勢ケアの基本的な考え方】 ・車椅子シーティング ・ファーラー位ケア ・臥位ポジショニング ・良い姿勢とは ・骨盤姿勢と安定の重要性 ・臥位ポジショニングの実際
⑤	【臥位ポジショニングのデモンストレーション】 ・モデルを使った講師によるデモンストレーションの映像
⑥	【デモンストレーションのまとめ】 ・車椅子シーティング ・ファーラー位ケア ・臥位ポジショニング ・良い姿勢とは ・骨盤姿勢と安定の重要性 ・臥位ポジショニングの実際

研修No.81 環境整備（福祉用具と住宅改修の整備）と住まい方

①	【環境整備(住宅改修・福祉用具導入)の意義】 ・事例を通して意義を考える ・自立とは
②	【住宅改修・福祉用具に関連する介護保険】 ・住宅改修(見積書、研修、各構法等) ・福祉用具(サービス計画、価格等)
③	【住宅改修・福祉用具における多職種連携】 ・建築施工者とケアマネ&セラピスト ・福祉用具専門相談員&セラピスト
④	【住環境整備の出発点】 ・ニーズ把握 ・動作分析
⑤	【病気と住環境整備のポイントⅠ 脳卒中・オリーブ橋小脳委縮症・パーキンソン病】 ・各病気の症状とアセスメントのポイント
⑥	【病気と住環境整備のポイントⅡ 関節リウマチ・認知症】 ・各病気の症状とアセスメントのポイント
⑦	【住宅改修の実際】 ・写真を用いた事例紹介 ・ロボットの定義

研修No.82 血管性認知症高齢者へのケアの知識と技術

①	【認知症の理解】 ・認知症とは ・日常生活とは ・認知症の症状
②	【血管性認知症 特徴・臨床経過・治療・予後】 ・原因疾患(脳血管障害)の理解 ・血管性認知症の方の姿 ・経過～予後
③	【ケアの考え方と技術1】 ・認知症ケアの考え方 ・心理ニーズを理解する ・薬物療法と非薬物療法
④	【ケアの考え方と技術2】 ・医療からのアプローチ ・介護からのアプローチ
⑤	【ケアのあり方1】 ・BPSDに対する正しい解釈 ・BPSDを減らすケア
⑥	【ケアのあり方2】 ・チームケアの実践 ・チームケアに必要な具体的視点 ・コミュニケーション
⑦	【血管性認知症ケアの実践例】 ・事例紹介 ・看取りに対する考え方 ・まとめ

研修No.83 介護職のためのここは押さえておきたい接遇マナー基礎研修

①	【接遇とビジネスマナーの違い】 ・マナーとは ・接遇とは ・接遇ができていない施設はここが違う
②	【接遇の五原則(あいさつ)】 ・あいさつの意味 ・ここで差がつくあいさつ ・入室の仕方
③	【プロ意識が感じられる身だしなみ】 ・身だしなみ3つのルール ・身だしなみのチェック ・態度
④	【他施設から学んでみましょう】 ・他施設の写真を見ながら接遇を考える
⑤	【ことばの影響】 ・基本は丁寧語 ・語尾を整える ・専門職のプロとは ・現場で普段使っている気をつけたいことば ・優しいってどういうこと？
⑥	【何を届ける仕事ですか？】 ・役割 ・社会人のマナー ・ウオンツサービスとニーズサービス ・利用者が求める職員像

研修No.84 介護の基本を身につけるための集中講座 ～基礎～

①	【介護という仕事を理解する】 ・介護の仕事が必要な背景 ・利用者の立場になる ・尊厳って何？ ・自立支援って何？ ・介護職の役割と介護保険制度
②	【不適切ケアを行わないために】 ・不適切ケア ・接遇、マナー ・虐待 ・身体拘束
③	【法令を守ってチームで働く】 ・個人情報、プライバシーの保護 ・チームケアの必要 ・法令に基づいたサービス提供

研修No.85 介護の基本を身につけるための集中講座 ～各論～

①	【食事のケア】 ・食事とは ・食べないという時どう考えるか ・食事姿勢
②	【排泄・入浴・睡眠のケア】 ・排泄のケア ・入浴のケア ・睡眠のケア
③	【姿勢、移動・様々な生活行為のケア】 ・姿勢、移動のケア ・様々な生活行為のケア ・福祉用具、環境整備 ・感染症予防
④	【医療との関わり】 ・病気、医療 ・緊急時対応 ・リハビリテーション ・ターミナルケア
⑤	【認知症・家族、地域との関わり・リスクマネジメント】 ・認知症 ・家族、地域との関わり ・リスクマネジメント ・介護職の基本姿勢

研修No.86 ショートステイにおける相談援助の課題と生活相談員の役割

①	【ショートステイの意義】 ・ショートステイの「使命」とは ・ショートステイの機能
②	【ショートステイの構造的課題】 ・事例から学ぶ(生活環境の移動、2人の利用者、不定期的な利用形態)
③	【ショートステイ相談員の役割Ⅰ】 ・ショートステイ相談員の業務実態 ・予約管理、稼働率管理
④	【ショートステイ相談員の役割Ⅱ】 ・事前面接、情報収集 ・家族の理解と連絡、調整
⑤	【ケーススタディ】 ・帰宅願望をとまなう粗暴行為が見られた事例 ・無断外出が見られた事例
⑥	【グループワーク】 ・ショートステイの抱える諸問題
⑦	【ショートステイを円滑に運営するために】 ・個別援助計画について ・他職種との連携について ・ショートステイ相談員の心構え ・コンシェルジュとしての役割

研修No.87 リスクマネジメント研修

①	【介護トラブルとは】 ・介護トラブルとは ・介護裁判判例 ・過失の見極めのポイント ・マイルールを決めよう ・契約書に追加する解約条項例
②	【実践的な対処法】 ・自分たちを守るためのリスク説明 ・事故対応体制チェック ・事故後の家族対応 ・行政報告 ・謝罪 ・事故の法的責任の考え方
③	【記録を書く目的】 ・ケアプランの重要性を捉える ・記録は職員を守る ・記録を書く注意点 ・事故報告書 ・介護事故が発生する背景とは

研修No.88 BCP（事業継続計画）及び災害時対応研修

①	【介護事業所におけるBCP策定のポイント①】 ・BCPとは ・災害対策に必要な考え方 ・BCP策定の考え方と手順 ・災害発生時に把握すべき状況例
②	【介護事業所におけるBCP策定のポイント②】 ・対策本部を設置する上で設定すべき事項 ・リスク想定 of 考え方 ・インフラ代替策の事前準備 ・重要業務の継続判断 ・安否確認の基本事項
③	【介護事業所におけるBCP策定のポイント③】 ・労務管理上の準備事項 ・利用者状況の把握 ・マニュアル作成 ・災害対応連携の考え方 ・風水害リスク対応

15分研修シリーズ コンテンツ

15分研修シリーズは、「時間が無い」「限られた時間を有効活用したい」「研修を定着させたい」という事業所におススメです。配信中の研修から、要望の多い分野を抽出し、各コンテンツ12分～18分にまとめています。

No.	タイトル	No.	タイトル
1	高齢者の病気の特徴	21	聴き上手なリーダーとなるために
2	接遇の理解と現場にふさわしい言葉使い	22	入職前キャリア別対応方
3	クレーム・苦情対応	23	褥瘡発生のメカニズムとずれについて
4	高齢者の転倒予防	24	個人情報の取り扱い
5	標準感染予防策	25	利用者の真の主訴を考える
6	緊急時対応	26	不適切ケアを考える
7	記録のポイント	27	行動・心理症状はなぜ起こるのか
8	食後の口腔ケア	28	チームで取り組むということの意味
9	インフルエンザ・ノロウィルス対応	29	バイスティックの7原則
10	クレーム・苦情対応～実践編	30	介護現場の衛生管理
11	新人教育の前に知っておきたいリーダーの心構え	31	解剖学で座位を考える
12	報告の仕方	32	職員の健康管理
13	拘縮のケア	33	食事姿勢
14	認知症ケアの専門性を理解する	34	認知症の特徴と多職種連携の必要性
15	看取りケアの基本	35	変化を嫌う職員の特性を理解する
16	ヒヤリハットの目的と意義	36	感染対策において求められるもの
17	摂食嚥下の基本	37	認知症の3分類
18	介護職員の医療外行為	38	異常の早期発見のための観察の視点
19	アセスメントの目的	39	自立支援とは
20	遊びリテーションとは	40	超高齢社会における課題

毎月5タイトル追加していきますので、定期的な勉強会に活用いただけます！

追加配信予定研修

研修名	研修内容
施設・在宅における食事姿勢の基礎研修	<ul style="list-style-type: none"> ・支援につなげるための摂食嚥下機能への理解 ・「食事の基本姿勢」の意味・意義 ・全身姿勢が摂食嚥下機能へ与える影響 ・座位／ファーラー位／臥位での食事摂取姿勢のポイント
保健・医療・福祉職員のためのスーパービジョン基礎研修	<p>【理論編】・スーパービジョンの概念・構造・機能、形態、内容 ・スーパービジョンが実施される場 ・スーパービジョンにおける倫理</p> <p>【実践編】・スーパービジョンニーズ ・スーパービジョンの流れ ・効果的なスーパービジョンのための組織マネジメント ・留意点</p>
認知症高齢者のケアプラン作成基礎研修	<p>【認知症の理解】・認知症の基礎知識 ・疾病別の認知症の特徴 ・BPSD（行動・心理症状—周辺症状）の考え方 ・対応の基本</p> <p>【ケアプランの理解】 ・アセスメント技術 ・個別援助計画の基本 ・作成上の留意点 ・計画の実践 ・連携 ・モニタリング</p>
利用者の「自立生活支援」に向けた訪問介護計画書作成及びモニタリングのための研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護サービス一連の流れ ～サービス提供責任者の役割 ・身体介護と生活援助の分類について ・ICFの視点によるアセスメント ・訪問介護計画書の作り方 ・「利用者流」を意識した、ケア手順書の作成方法 ・計画の見直しにつなげる効果的なモニタリング ・演習：事例を用いた訪問介護計画書の作成及びモニタリング
認知症の当事者の「生の声」を聞き、認知症を“心”で理解する研修会	<p>【認知症の理解】・認知症とは ・認知症の症状 ・主な認知症の種類と特徴</p> <p>【認知症に対する支援】・地域で暮らすための支援 ・地域との関わり</p> <p>【認知症当事者から学ぶ】 【介護従事者としての関わり方を考える】</p>
アドラー心理学に学ぶコミュニケーションスキルアップ研修	<p>【アドラー心理学とは】・認知論・目的論・主体論・対人関係論・体感覚・全体論</p> <p>【自分とのコミュニケーション】・リソース ・リフレーミング</p> <p>【相手とのコミュニケーション】・アサーション</p> <p>【ことばの使い方】・勇気づけ ・勇気くじき ・コーチング</p>
移乗総論 (移乗技術・福祉用具の利用も含む)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移乗とは 2. 介護現場における腰痛の問題 3. 身体機能に合わせた移乗方法 4. 移乗の種類 5. 移乗技術
家族の支援に関する能力向上研修	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉の現場における家族の捉え方 ・家族支援に関する視点と理論的な枠組み ・事例にみる家族支援の実践
坐り方次第で介護がラクになる！明日からできるシーティング実践セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・新事実！実は人間は座れない動物だった ・不良坐位を見抜く3つのチェックポイント ・シーティング3ステップ～シーティング基本評価方法 ・シーティングで誤嚥性肺炎や褥瘡を予防できる
介護ロボット導入及び運用研修	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットはどんな存在なのか ・介護はAI(人工知能)の影響を最も受ける業種 ・実証実験から見てきた介護ロボットの本質 ・万能な介護ロボットは存在しない ・他の施設で評価が高い介護ロボットを入れて失敗するのはなぜか ・介護ロボットデビューの施設に適した機器は何か ・導入よりも運用がはるかに難しい～上手に運用するために必要なこと～ ・介護ロボットメーカーに伝えたいこと
働きやすさとやりがいを手に入れるメンバーシップ 研修会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護現場における「真のチーム」を理解する 2. リーダーを孤独にさせないために リーダーの役割と意思を知る 3. リーダーの能力はメンバーの「行動」で向上する 4. チーム力を向上させるメンバーの行動とは
脳血管障害（脳卒中）の基礎知識とケアの技術	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害とは ・脳血管障害の分類と原因 ・脳血管障害に伴う後遺症 ・運動マヒのステージと簡易検査法 ・運動マヒのステージと生活（上肢・下肢） ・拘縮を防ぐには ・高次脳機能障害のいろいろ ・脳血管障害のケアのポイント ・実技指導（三角巾の付け方、拘縮を防ぐ運動、拘縮を防ぐ運動）
介護技術研修 ～起き上がり・移乗～	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立法と介護法の実践とその解説 2. 起き上がりのしくみを理解する 3. 起き上がりの具体的な介助方法、片肘立位へのプロセスをクリアする方法 4. 立ち上がりのしくみを理解する（動作分析） 5. 立ち上がりの3条件とは？ 6. 立ち上がりの具体的な介助方法の解説 7. 座り直しの方法とは？ 8. 移乗の具体的な介助方法の解説 ①後方介助 ②前方介助

<p>基礎から学ぶ入浴介助実践研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の目的と意義 ・羞恥心や遠慮への配慮 ・認知症の方の入浴ケア ・ストレッチャー浴、機械浴の適応 ・入浴の効果と注意事項 ・好ましい入浴環境と福祉用具 ・入浴動作に応じた環境整備と安全確保 ・入浴介助の基本的な考え方 ・入浴介助のポイント ・入浴介助の応用（前方介助、手を離せない方の介助、重度の方の二人での介助）
<p>グループホームの健全な運営のためのマネジメント研修</p>	<p>【制度改正における視点】・制度改正に対する取り組み 【サービス提供における取り組み】・認知症ケアと生活支援・認知症ケアと環境整備 ・認知症ケアにおける記録 ・リスクマネジメント・接遇 【人事マネジメント】 ・人材育成の取り組み ・離職防止への取り組み 【重度化への対応と地域等との関わり】・重度化への対応 ・他職種との連携 ・インフォーマル資源の活用 【健全経営の視点】 ・空室ゼロへの取り組み ・健全経営の視点</p>
<p>フレイル・ロコモティブシンドローム基礎研修</p>	<p>【フレイル】 ・フレイルとは？ ・フレイル状態に至るとどうなるか？ ・フレイル、サルコペニア、ロコモの関係・原因・低栄養との関係・進行 ・多面性・診断基準・基本チェックリスト・簡易チェック・予防 ・運動療法と栄養療法 ・社会参加 ・フレイルサイクルとは ・サルコペニア ・重症化しないためのケア 【ロコモティブシンドローム】 ・ロコモティブシンドロームとは？ ・定義 ・予防がなぜ必要なのか？ ・要介護の原因となるロコモ ・原因 ・ロコモをチェックする ・症状が出る年齢は？ ・症状が進む過程 ・予防 ・ロコモのケア【実技】 ・ロコモ度テスト ・ロコトレ ・基本チェックリスト</p>
<p>個人情報管理研修 情報漏洩のリスクに必要な対策とそのポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたにとって知られたくない個人情報とは？ ・情報を守るべき範囲 ・経済的損失レベル・精神的苦痛レベル ・情報漏洩原因の傾向とその分析 ・情報に関する整理整頓・管理・適正な処理 ・外部からの訪問・電話による情報漏洩 ・車中の忘れ ・私物管理も大切な役割 ・SNSによる情報漏洩 ・在席中だけでなく、退職後の情報管理について

※上記は追加配信予定の一部です。ご要望や必要性に応じて随時新しい研修を配信して参ります。
また、追加配信予定や内容は変更する場合がございます。

池江 俊博

サンタフェNLP、発達心理学協会認定NLPトレーナー、株式会社ノーザンライツ代表取締役
元空自戦闘機操縦士から教育者へ転身。20年以上に渡り0歳からの早期教育そして母親指導を行う。人間中心カウンセリングを学び、NLPを用いプチ速読や飛行機の操縦訓練を取り入れた研修などを開発。コミュニケーションやメンタルトレーニング指導やセミナー、幼児教育、能力開発、プチ速読講座など多様に全国各地で開催中。文部科学省・初等中等教育局財務課の平成18,19年度「新教育システム開発プログラム」にコンテンツ提供、全国の小中学校の児童生徒教員、PTAへの指導を行う。現在、Keylight（北京）全脳教育の社長に就任し、教師や講師の育成などもおこなっている。わかりやすいと好評の体験型講座は医療、福祉関係者向けの提供実績多数。

石坂 秀己

高校卒業後、株式会社オリエンタルランドに入社。東京ディズニーランドのアトラクションの責任者として約15年勤務。研修インストラクターを兼任し、接客研修の基礎を築き上げる。退職後、アミューズメント業界への派遣を中心とした人材派遣会社に入社し、幅広く研修スキルを身につけ、さらに実績を積む。2005年、独立開業し、接客研修を中心としたビジネスモデルを構築するため「接客向上委員会&Peace」を設立、現在に至る。〈著書〉「ディズニーランドが教えてくれたみんなが笑顔で働ける習慣」、「ディズニーランドで語り継がれる魔法の言葉3」

梅沢 佳裕

健康科学大学健康科学部福祉心理学科准教授／福祉と介護研究会35代表／社会福祉士／介護支援専門員 専門分野：高齢者福祉学、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）介護福祉士養成専門学校の助教員を経て、特養・在宅介護支援センター相談員を歴任する。その後、デイサービスやグループホームの立ち上げに関わり、自らも管理者となる。「福祉と介護研究所」を設立、相談員・介護職・ケアマネジャー等のスキルアップ研修講師を多数行う。

大塚克巳

株式会社フォーサイトコンサルティング 介護リスクコンサルタント／一般財団法人リスクマネジメント協会 認定インストラクター／介護支援専門員／介護福祉士／社会福祉主事／認知症実務者研修専門課程修了
17年間にわたり社会福祉法人にて複数のサービス現場を経験後、6事業の統括業務に従事。介護事故担当および利用者家族対応責任者を経験し、現職へ。東京都福祉サービス第三者評価制度の評価者として、100事業所以上の評価実績をもち、介護現場におけるリスクマネジメント活動の支援も行う。

大塚 洋

新しい介護研究所代表、理学療法士、介護支援専門員、福祉用具専門相談員、キャラバンメイト生活とリハビリ研究所・研究員（介護アドバイザー）

大瀧 厚子

保健師、看護師、介護支援専門員、福祉施設士、元特別養護老人ホーム施設長
慶応義塾大学病院の内科病棟に勤務した後、新潟の地域病院に勤務。介護老人保健施設の立ち上げに携わり介護保険制度の施行に伴い介護支援専門員として大手企業にて新規事業所の立ち上げを行う。その後、平成14年に特別養護老人ホームの施設長に就任。現在は独立され、介護職や医療職を対象にターミナルケアや医療に関する講演を全国で展開中。主な著書：『生活の場のターミナルケア』、『介護スタッフのための安心！医学知識』、『介護職のための医学知識ガイドブック』、『ここから始める介護』ほか著書多数。

大淵 哲也

介護事業会社本部付、理学療法士、介護支援専門員
1985年、川崎リハビリテーション学院理学療法科卒。岡山県庁職員を1年経験の後、新潟市内の急性期医療機関に勤務。その後、介護保険制度の開始とともに介護サービス事業所勤務に就き、施設ケアマネ・特養副園長・民間会社にて介護施設立ち上げ・福祉用具会社勤務などを経験。現在は（有）スマイル所属、新潟県内7ヶ所の介護現場のフォローしつつ教育研修を行っている。その他、依頼に応じて、民間セミナー会社、日本リハビリテーション協会車いすSIG、日本車椅子シーティング協会、テクノエイド協会研修への出講や、執筆等を行う。

小田 昌敬

社会福祉士／ファシリテーター株式会社代表取締役
大学卒業後入社した会社で福祉機器関連事業を立ち上げ、324件もの施設を訪問。現場の経営者・リーダー・現場スタッフの悩みに聞き続け、解決つなげる情報を提供。社会インフラである看護・介護人材が生き生きと働ける環境を増やすために、ファシリテーター株式会社を設立。2008年には社団法人広島県社会福祉副会長に就任。「相互理解と連携力を向上させるチーム作り」をテーマに、主に福祉関連組織にて、コミュニケーション力向上や業務改善のコンサルタント研修講師としても活躍。『月刊ナース マネージャー』（日総研出版）『おはよう21』（中央法規）『デイの経営と運営』（QOLサービス）他、多数。

加島 守

理学療法士、高齢者生活福祉研究所所長
昭和55年医療ソーシャルワーカーとして勤務後、理学療法士資格取得。越谷市立病院、武蔵野市立高齢者総合センター補助器具センター勤務を経て平成16年高齢者生活福祉研究所設立。新潟医療福祉大学非常勤講師、国際医療福祉大学大学院非常勤講師、財団法人保健福祉広報協会評議員、厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦推進会議ハード改善分科会」委員、福祉用具（車いす）適合技術に関する調査研究委員など高齢者の医療福祉分野全般で広く活動中。在宅介護ですぐに役立つ福祉用具の基礎知識（シルバー産業新聞社）

加藤 慶

理学療法士、生活介護研究所尾張旭事務所所長

病院勤務時代では『出向』の名の元に透析病院・老健などさまざまなタイプの医療を経験。福祉に転進、家族の要望リレーで『歩く、りはびり相談所』という地域・在宅で活躍していた時期もあり。特養・グループホーム・ケアハウス・デイサービス・ショートステイ・小規模多機能・有料・老人病院などの現場を経験し、本音でわかりやすい介護をさまざまな場で提案。介護現場のクオリティをオールマイティーに支えている。現在も訪問看護のサポートなど地域を支えながらこれまで得たノウハウを全国へ伝えまわっている。著書に、『介護スタッフのための安心！リハビリ知識』（秀和システム）、監修に『拘縮対応ケアハンドブック』（ナツメ社）。

金沢 善智

医学博士、工学修士（建築学）、理学療法士。

関東・東日本で福祉用具導入及び住宅改修を行う。数千人の利用者と関わった経験をベースにした知識及び技術を広める為に、全国で福祉用具や住宅改修に関する講演活動を展開。福祉用具の施策にも深く関わる。弘前大学大学院助教授、目白大学教授を経て、(株)パリオンの代表取締役、介護環境研究所代表。福祉用具専門相談員協会理事等数多くの要職を務める。環境整備において、第一人者でもある。

著書：『福祉用具個別援助計画書の書き方と記入例』『ガイドラインにそった福祉用具の選択・活用法』他

木原 康彦

カイロス・ヒューマンファクターズ研究会代表（元日本ヒューマンファクター研究所リスク管理研究室長）

企業・医療・介護現場におけるリスク管理やヒューマンファクターについてのコンサルティング及び研修・講演を中心に活動。日本医療機能評価機構、医師会、社会福祉事業団等で研修講師を担当。病院等施設でのリスクマネージャー支援業務。様々な業種における事故のヒューマンファクターの視点からの調査・研究やリスクマネジメント支援などで幅広く活躍。

串田 英之

湖山リハビリテーション病院作業療法士／シーティングエンジニア／介護支援専門員／認知症ケア専門士

北海道東海大学卒業。昭和大学医療短期大学作業療学科卒業後、一宮温泉病院リハビリ科に入職し、主に重度の脳血管疾患患者のリハビリを担当。湖山リハビリテーション病院では、回復期リハからターミナル、入院入所から在宅まで経験。富士・富士宮地区シーティング勉強会を主宰し来年で10年目を迎える。光野有次氏らと共著「寝かせきりにしない『坐り』ケアの実践」、これならわかるシーティング 『快適座位』こそ介護の決め手（2019）を出版。

口村 淳

特別養護老人ホーム淡海荘介護課長、博士（社会福祉学）、介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士

特養、ショートステイ、デイサービスの生活相談員を経て、現在は特養の介護課長として従事。同志社大学社会学部嘱託講師。主な著書『高齢者ショートステイにおけるレジデンシャル・ソーシャルワーク』（単著、法律文化社）、『稼働率アップ実践例とQ&A』（分担執筆、日総研出版）、『また利用したいと言わせるショートステイ相談援助・運営管理』（単著、日総研出版）、『利益を生み出す相談員の段取りと実践』（単著、日総研出版）。

後藤 佳苗

千葉県介護支援専門員協議会理事、看護学修士、保健師、介護支援専門員、介護支援専門員指導者、介護予防指導者、認知症介護指導者、あたご研究所代表。

齊藤 浩二

介護福祉士／社会福祉士／介護支援専門員／認知症介護指導者／米国NLP協会、日本NLP協会、LABプロファイルプラクティショナーの認定資格

社会福祉法人に勤務。介護職員、在宅介護支援センターSW、居宅ケアマネ 施設ケアマネ、生活相談員、ISO9001取得に関するプロジェクトリーダー・取得 後内部監査員などを歴任し、現場に即した経験と実績は豊富。現在、グループホーム、居宅介護支援事業所、放課後等デイサービス、法人内託児所等の統括 部長として、人材育成にも力を注いでいる。その他、介護認定審査会審査委員、介護専門誌寄稿など活動の場を広げている。

榊原 宏昌

天晴れ介護サービス総合教育研究所株式会社 代表取締役、介護福祉士、介護支援専門員

京都大学経済学部卒業後、特養に介護職として勤務。社会福祉法人、医療法人にて、生活相談員、グループホーム、居宅ケアマネジャー、有料老人ホーム、小規模多機能等の管理者、新規開設、法人本部の仕事に携わる。15年間の現場経験を経て、「介護現場をよくする研究・活動」を目的として独立。執筆、研修講師、コンサルティング活動を行う。著書、雑誌連載多数、講演、コンサルティングは年間300回を超える。

佐久間由香

医療福祉コミュニケーションカレッジ学長／株式会社 COCORL 代表取締役／医療福祉コーチ／NLP パッションインアクショントレーナー／エリクソン催眠プロデクショナー／日本レク協会インストラクター／看護師・介護教員。大学病院(手術室救命病棟)から特養、訪看、デイサービス、重身や介護学校へフィールドを広げ、現在は、アドラー心理学をベースとしたコーチングスクールの運営や病院、施設での研修を全国に展開。自発的自立型スタッフに導くコミュニケーション手法について、アドラー心理学をベースにご提供。離職率ゼロ企業を達成！3000人以上のコーチングセッション・各種講演会1万回以上・悲嘆ケアや催眠療法などココロとカラダをつなぐケアとして幅広く活動している。

佐藤 彰紘

作業療法士、目白大学准教授。山梨大学大学院医学工学総合教育部卒業（医科学修士）、日本摂食嚥下リハビリテーション学会会員。山梨在住時に歯科医師や言語聴覚士、管理栄養士らとともに「摂食嚥下さぼーとやまなし」の発起人として、研修会の企画・実施、近隣施設への訪問指導などを行う。現在は、摂食嚥下リハビリに関する種々研修会で講師を務めるとともに、現場では、「介護スタッフが現場で行える摂食嚥下リハビリ」をモットーに指導を行い、肺炎での入院者数を1/3まで減らすことにも成功している。

佐藤 ちよみ

介護福祉士／介護支援専門員／東京都福祉サービス第三者評価者／対人援助スキルアップ研究所所長
特別養護老人ホーム、介護サービス事業所勤務を経て独立。2004年対人援助スキルアップ研究所を設立。サービス提供責任者や介護支援専門員のスキルアップ研修、対人援助技術講習、施設の新人研修等、各研修会講師や、交流分析インストラクターとして後進の指導・育成に力を注ぐ。著書：『新、訪問介護計画書のつくりかた』、『サービス提供責任者の業務実践マニュアル』等多数。

品川 博二

臨床心理士／日本ケア・カウンセリング協会代表理事
早稲田大学卒業後、東京教育大学（現、筑波大学）教育相談研究所にて臨床研修を修了。磯ヶ谷病院心理室長を経て、2000年に内閣府認証NPO法人日本ケア・カウンセリング協会を創立、現在、同代表理事。これまでに東京学芸大学、目白大学 大学院等の講師を歴任、また横浜地裁の精神鑑定人も務める。サイコオンコロジー（精神腫瘍）学会・日本カウンセリング学会・日本行動療法学会所属。聖路加国際病院精神腫瘍科に勤務（～2018年3月）。現在、「表参道こころのクリニック」にて集団認知行動療法を担当。

神 智淳

お茶の水ケアサービス学院学院長、コ・メディカルアカデミー学院長、老年学修士、日本健康医学会監事 福祉サービス第三者評価者、介護サービス情報公表調査員指導者、月間福祉介護テクノプラス編集委員、専門的知識及び技術を有する福祉用具専門相談員養成研修検討委員など。
福祉サービス第三者評価者、介護サービス情報公表の調査員の指導・育成に従事。公益団体との共同研究や外部評価に関する講演や執筆活動の他、介護雑誌の編集委員を務めている。介護施設や介護記録に関するソフトの開発・運営会社のコンサルテーションを行う。福祉用具専門相談員の適正配置に関わる養成モデル事業作業部会委員、厚生労働省の福祉用具サービス計画のガイドライン作りにも携わる。

高口 光子

理学療法士、介護支援専門員、介護福祉士、湖山医療福祉グループ医療法人財団百葉の会人材開発室部長、特別養護老人ホームマナーハウス麻溝台教育担当部長。現場を守りながら若い運営スタッフやリーダー育成に取り組む一方で、講演、執筆活動、フェイスブック、NHKに出演。現場からの等身大の発言・提案で現場を変革させようと精力的に日々を送る。これまでの現場からの学びの集大成として、「介護施設で死ぬということ」（講談社）を、また、現場を知らない人々も関係者の方々にも「今の介護現場」を知ってもらいたいという想いから、『介護の毒は孤独（コドク）です』（日総研）を刊行。

高橋 衣吹

介護福祉士、福祉用具専門相談員
小学校時代から学生時代まで、特養へのボランティア活動をした後、介護福祉士を取得。養護・デイ・訪問入浴・特養の中間管理職&ボランティアでの宅老所の2足のわらじを経て、介護の真髄を極めるためフリーとなる。トータルケアからユニットケア、施設ケアから在宅ケア、介護予防から看取り介護と、現場経験からのノウハウとパワフルな辛口アドバイスは、特に疲れきった現場や暗中模索の現場には香辛料のごとく、やみつきになるとの評判である。セミナー講師、介護予防教室、介護家族者教室、初任者研修、福祉用具専門相談員指定講習会、実践者研修講師等にて活動中。

田久保秀樹

特別養護老人ホーム新鶴見ホーム課長補佐
横浜市立大学卒。1995年財団法人横浜市ホームヘルプ協会(現:社会福祉法人横浜市福祉サービス協会)入職。情報システム部門を経て、現職。介護・生活支援ロボット活用研究会副委員長。スマート介護士(Expert)。全国に先駆けて施設内で常設の「ICT委員会」を立ち上げ、最新の介護ロボット・ICT機器の勉強会を開催。多数の介護ロボットの検証実験を行い、ロボットメーカーへフィードバックを行う。海外を含めたメディア取材・視察も多数受ける。ニュートラルな視点に立つ「目からウロコが落ちる」講演内容に定評がある。介護ロボットの研修の講師の実績多数。

竹内 太一

介護支援専門員、社会福祉士、精神保健福祉士
各教育機関で、社会福祉に関する講師をしており、介護や福祉関係の仕事に携わる人材の育成を行っている。ヘルパー研修、ケアマネジャー研修講師。現在リハビリテーション施設ケアマネジャー。平成7年から現場一筋。

田島 利子

介護福祉士、介護支援専門員、グループホームあんずの家ホーム長
日本でもモデル的なグループホームの礎をつくったグループホーム管理者。現場の業務に精通したスペシャリストで、介護現場の実情を踏まえた実践的な講義が好評。25年以上の大変豊富な知識と経験を兼ね備えた専門家。事業所での研修やコンサルテーション等を行っている。

野崎美香

言語聴覚士／Clown one japan 認定クラウンアンバサダー／一般社団法人エフェクティブコーチング協会認定 SCAN
ハンドラー／Life Lab LUCE 代表
九州地区言語聴覚士会合同学術集会にて、「右後頭葉の皮質下出血により作話の目立つ記憶障害を呈した一例」が日本
言語聴覚士協会より、協会長賞受賞。自分も相手も大切にできるコミュニケーション・アサーション～遠慮せずに話
せるようになるために～などを講演。

濱島 しのぶ

株式会社のコーポレーション代表／介護支援専門員／全米NLP協会、日本NLP協会、LABプロファイルプラ
クティショナーの認定資格
ANAにCAとして配属。その7年後、教官となり、新人CAの教育訓練を担当。同時にサービス接遇委員会のプロ
ジェクトメンバーとなり活躍。退社後、社会福祉法人に就職。教育担当で配属されたのですが、教育するには現場を
わかる必要があると介護士に転身。介護主任を勤め、現場職員の接遇マナーの指導にあたる。現在は、起業し、医療
現場の接遇マナーセミナー、全国各地で施設内指導、コンサルティング、講演活動を展開している。

福辺 節子

一般社団法人 Natural being 代表理事、理学療法士、医科学修士、介護支援専門員
大学在学中に事故により左下肢を切断、義足となる。介護・医療などの専門職に加え、家族など一般の人も対象とし
た「もう一歩踏み出すための介助セミナー」を主催。施設や家庭でのリハビリテーション・介助のアドバイスを通じ、
対象者の力と変化を引き出すフランク上のケアの指導を目指す。介助の達人として、NHK「ためしてガッテン」や
NHK Eテレ「楽ラクワンポイント介護」に出演。著書に「福辺流 力のいらぬ介助術」(中央法規) 他、多数執筆。

牧野 美奈子

看護師、介護福祉士、ケアマネジャー、介護予防主任運動指導員、コンチネンスアドバイザー
排泄に関する研究で著名な日本コンチネンス協会の排泄相談員で、2007年に老年泌尿器学会で学会賞を受賞。全国
自治体の主催する研修会をはじめ数多くの講演を担当。排泄分野では最も活躍している専門家の一人。「オムツ百科」、
「福祉用具の選択・活用法」等著書多数。

松本 健史

理学療法士／介護支援専門員／社会福祉学修士／松本リハビリ研究所所長
関西大学法学部卒業。阪神・淡路大震災の経験後、リハビリの道へ。九州リハビリテーション大学を卒業、NPO 法
人丹後福祉応援団に勤務。2014年「松本リハビリ研究所」を設立。これからの超高齢社会で活躍できる「生活リハビ
リの達人」養成研修が話題。
著書に「間違いだらけの生活機能訓練改善授業」、「認知症・中重度利用者 生活機能訓練」(日総研)「転倒予防のす
べてがわかる本」(講談社) ※アマゾン3位獲得！他多数。

三田村 薫

3suncreate (サンクリエイト) 代表
主任介護支援専門員／米国NLP協会認定マスタープラクティショナー／JADPメンタル心理カウンセラー／GC
Sプロフェッショナルコーチ／NRT トランスフォーマー／AOC 認定コーチ／一般社団法人日本ポジティブ教育協会
認定レジリエンス・トレーナー

山田 美代子

社会福祉学修士・社会福祉士・介護支援専門員・介護予防主任運動指導員
東京都リハビリテーション病院、自治医科大学附属病院等にて、MSWとして勤務後、現職。
専門領域：ソーシャルワーク(医療及び災害、ケアマネジメント、スーパービジョン)。ルーテル学院大学大学院附属
包括的臨床死生学研究科にて、ターミナル期におけるグリーフワークプログラムである「臨床死生学トレーニングプ
ログラム(C T T P)」修了(2013)。日本医療社会事業協会 実習指導者研修運営委員、災害ソーシャルワーク研
修講師。

渡邊信介

介護老人保健施設星のしずく事務長／医療法人財団百葉の会静岡富士宮事業部運営管理
作業療法士、介護支援専門員
北里大学医療衛生学部作業療法学専攻を卒業後、静岡済生会総合病院リハビリテーション科勤務、医療法人財団百葉
の会介護老人保健施設鶴舞乃城、新規開設から作業療法士として勤務。その後、事務長として勤務。現在、医療法人
財団百葉の会静岡富士宮事業部運営管理兼星のしずく事務長として勤務。

渡辺 哲弘

株式会社きらめき介護塾代表取締役、一般社団法人きらめき認知症トレーナー協会代表理事、日本福祉大学社会福祉
総合研修センター兼任講師、滋賀県認知症介護指導者、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員
障害者施設・高齢者施設などの介護現場で20年間勤めた後、認知症ケアの研修講師として独立。現在は、介護事業所
や病院での専門職向け研修、公民館での地域住民向け講演会など、日本・ハワイにて年間で300回ほどの研修・講演
を実施。他にも「一日でも早く、一人でも多く、全国に伝えたい」を理念に、{認知症の基本}を職場や地域でわかり
やすく伝えられる専門職の養成を実施している。